住生活月間協賛　シンポジウム

福祉・デザイン だけじゃない　北欧

～生活と社会のベースとしての住宅～

主　催　　公益財団法人　アーバンハウジング

2025年10月15日(水)

開場12:30　　開会13:00

ホテルグランドアーク半蔵門　3階トパーズ

〈アクセス〉 半蔵門線「半蔵門駅」6番出口より徒歩3分　・　有楽町線「麹町駅」1番出口より徒歩7分

スウェーデン	水村容子(東洋大学　福祉社会デザイン学部　教授)
ノルウェー	〃
デンマーク	伊藤俊介(東京電機大学　システムデザイン工学部　教授)
フィンランド	石井　敏　(東北工業大学　建築学部　教授)
パネルディスカッション コーディネーター	神門侑子(日本女子大学　建築デザイン学部　助教)

本シンポジウムは、**予約制**です。先着順に受付けます。
下記事務局へ、9月30日(火)までに[北欧シンポ申込み]というタイトルを付けたメールでお申込みください。

〈お問合せ先〉
事務局　：　公益財団法人　アーバンハウジング　　urb@jh-a.or.jp　　Tel:03-3292-5252

福祉・デザイン　だけじゃない北欧　～生活と社会のベースとしての住宅～

北欧諸国に対して持つイメージとは、高負担高福祉、高い幸福度、高いデザイン性、あるいは独自のライフスタイルでしょうか。今回紹介する北欧4か国はこうした独自性を共通して纏いながらも、実際にはそれぞれの歴史や文化からくる違いがあり、これは住宅政策においても同様に表れています。

これまで、アーバンハウジングでは、北欧4か国それぞれにおける住宅供給の特徴などについて今回発表いただく先生方に調査をお願いしてきましたが、一連の調査研究を終えて、改めて各国の共通点や相違点、あるいは日本との対比をも意識しつつ、社会と住宅との関係を考える場を持ちたいとの思いから本シンポジウムを開催することとしました。

水村　容子　（みずむら　ひろこ）
東洋大学　福祉社会デザイン学部
教授

スウェーデン

自立と共助を実現する住まい

スウェーデン社会は、20 世紀初頭から社民党による「国民の家」構想のもと、高齢者・障害者・子育て世帯を含めたすべての国民にアフォーダブルな住宅供給を目指してきたが、1990 年代以降住宅市場の民営化に伴い住宅供給のあり方が大きく転換した。都市部では住宅価格が高騰すると同時に適切な質を保った住宅の入手が困難になる一方、共同性の高い集合住宅「コレクティブハウジング」が注目されるようになった。コロナ禍以降、ヨーロッパ社会においても様々な社会課題への解決策として共同性の高い集合住宅に関心が寄せられている。本報告では、コレクティブハウジングが脚光を浴びるようになった社会的背景と実際の居住状況を報告する。

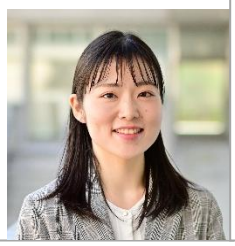
ノルウェー

持ち家社会の新しい住まい

ノルウェー社会はスウェーデン同様、高負担福祉国家として知られている。住宅政策や住宅供給体制において、スウェーデンと共通するシステムが存在する一方異なる点も多く、特に中央政府の政策として、戸建て持ち家政策が貫かれた点が大きく異なっている。一方、他のヨーロッパ諸国同様、住宅市場の民営化や不動産価格の高騰という課題にも直面しており、新たに持続可能な住まいの模索が進められている。本報告では、民間事業者や自治体が主導して供給が進んでいるコ・ハウジング（＝共同性の高い集合住宅）の供給プロセスおよび実際の住宅の状況を報告する。

パネルディスカッション　コーディネーター

神門　侑子　（かんど　ゆうこ）
日本女子大学　建築デザイン学部
建築デザイン学科
助教



伊藤　俊介　（いとう　しゅんすけ）
東京電機大学　システムデザイン工学部
デザイン工学科　教授

デンマーク

住宅を提供する仕組み、住まいを作る取り組み

デンマークでは持ち家の割合が日本とほぼ同じ約 6 割だが、それ以外の部分では「非営利住宅」という独特の仕組みによるものが 2 割を占め、コレクティブ・ハウジングやエコビレッジも住宅も多いことが特徴である。

非営利住宅は住宅組合が設立・経営する誰でも入居できる住宅である。公営住宅の受け皿にもなっていることから、行政から独立した主体ながら住宅政策の一翼を担っている。コレクティブ・ハウジングやエコビレッジは個性の強い住宅であるが、今日では住まいとして特殊な選択肢ではない。

本報告では、事例を通じてこれらの住宅を紹介する。デンマークは伝統的に草の根運動と市民参加が活発だが、住宅の場合は、全ての人に住まいを提供する上からの取り組みと、個人が理想の生活を作り上げようとする下からの活動の両方にこれを見ることができる。

石井　敏　（いしい　さとし）
東北工業大学　建築学部　教授

フィンランド

すべての人に住宅を
～ハウジングファーストの実践

「世界幸福度ランキング」（国連）で8年連続1位となり、世界の注目を集めるフィンランド。北欧型社会保障を基盤としながらも、歴史的・文化的には他の北欧諸国とは異なる独自の性格を持つ。近年、住宅政策分野でもヨーロッパで唯一ホームレスを減少させ、その成果は国際的に高く評価されている。その背景にあるのは、「すべての人に住宅を」という明確な理念と、「ハウジングファースト」の徹底した実践である。なかでも首都ヘルシンキは、理想的で適切な住宅施策を実現するため、長い年月をかけて市域の約3分の2を市有地化し、都市計画と一体で土地政策を推進してきた。本報告では、高齢者コ・ハウジングをはじめとする、ヘルシンキ市における多様な住まいの形と取り組みを、いくつかの事例を通して紹介する。